ふくしまスタディツアー2020～原子力災害後を共に生きる～

募集要項

【主催】

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター（未来共生プログラム）

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

企画趣旨

　東日本大震災から来年で10年の節目を迎える。住まいとまちの復興、産業・生業の再生は9割以上の事業が完了した（復興庁）。

発災直後47万人に達した避難者は、2020年8月現在約4.3万人となり、福島第一原発事故の中心地である福島県の避難者数は約3.7万人と全避難者の86％を占め、その内29,595人は県外で避難生活をおくっている。

一方で避難指示解除9地域における平均居住率は28.2%とまだ低く(2020.03.01河北新報)、農業、漁業を中心に風評被害も続いている。原子力災害の被災者は生活再建の見通しが立たず、復興にはまだまだ長い時間を要するといえる。しかし、原子力災害の被災地の状況や避難者についてメディアが取り上げる機会は減り、国民の関心は低下しており、原子力災害そのものの風化が懸念される。

　このような背景を踏まえ、福島第一原発事故の被災地の「今」を知り、多様な被災者、避難者の「今」を聴き、原子力災害後を共に生きる私たちは、いかにあるべきか考えることを目的にスタディツアーを実施する。

１．日程

　　事前学習　2020年10月 30日（金）17:00～20:30　 11月13日（金）17:00～18:30

 @最先端医療イノベーションセンター棟3F（演習室1.2）

　　現地訪問　2020年11月19日（木）～21日（土）（宿泊場所は福島県いわき市内）

　　　　　　　★旅費は大学がすべて負担

２．内容

【事前学習】

　・福島第一原発事故の概要説明、参考図書の紹介、ドキュメンタリー映画「福島は語る」の鑑賞

　・福島の復興について（福島県庁の方にお話を伺う＠オンライン）

【現地訪問】

　１日目

・廃炉資料館見学（富岡町）

・被災者の「今」を聴く①（富岡町民に町内をご案内いただく）

２日目

　　・双葉町訪問（双葉町の視察と自治体の取り組みを学ぶ）

 ・東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

　　・被災者の「今」を聴く②（双葉町民の語りを聴く）

　3日目

　・地元支援団体（NPO法人みんぷく）の活動を学ぶ（予定）

・広域避難後、生活内（いわき市）避難している避難者の「今」を聴く③

　・全体ふりかえり

 　　＊内容は変更される場合があります。ご了承ください。

３．募集対象・人数　　人間科学研究科院生５人程度、全学部生３人程度

４．募集期間　2020年10月 14日（水）～10月23日（金）

５．応募条件

　　　全行程（事前学習を含む）に参加し、志望動機（400～800文字程度）を募集期間内に提出すること。

なお、応募にあたって指導教員の許可を得てください。応募多数の場合は選抜します。

【問い合わせ・応募用紙提出先】

　　未来共創センター（人間科学研究科　東館105）：石塚裕子（y-ishizuka@hus.osaka-u.ac.jp）

　　応募用紙はメール又は未来共創センターに提出してください。

ふくしまスタディツアー2020　応募用紙

　私は「ふくしまスタディツアー」を申し込みます。

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名（学年・所属） |  |
| 連絡先 | メールアドレスと携帯電話番号 |
| 志望動機 |  |
| 指導教員による承認（署名又は押印） | 上記の所属学生が「ふくしまスタディツアー2020」に参加することを許可します。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　㊞ |